

## INFORMATION

# 担い手農業者の半数が労働力増加 ～ 約半数の経営体で女性が経営に関与 ～

日本政策金融公庫・農林水産事業は、「令和元年7月農業景況調査」の特別設問において、融資先の担い手農業者（スーパーL資金又は農業改良資金の融資先19,215）を対象に労働力の状況等についての調査（有効回答数5,378）を実施した。それによると、担い手農業者の半数以上は、過去5年間で労働力を増加したこと、女性従事者が「増加した経営体」の割合が「減少した経営体」の割合の2倍以上であることなどが明らかとなった。

### 担い手農業者の3割以上で労働力が不足

農業経営への意欲や能力のある農業者のうち、「農業経営基盤強化促進法」にもとづく経営改善計画の市町村認定を受けた認定農業者など、いわゆる担い手農業者における過去5年間の労働力の増減は、「増加」が50.1%、「変動なし」が46.2%、「減少」が3.7%であった。しかし、全体の34.0%の経営体で労働力が不足しているという結果であり、労働力を「増加」した中でも、未だ労働力が不足している経営体のあることも明らかとなった（表1）。

労働力「増加」の方法としては、「パートを増やし

ている」（24.7%）が最も多かったが、耕種部門と畜産部門を比較すると、耕種部門では「パートを増やしている」（26.9%）が多く、畜産部門では「常時雇用を増やしている」（27.8%）が多いという特徴がみられた（表2）。この背景には、労働力の需要に季節性がある耕種部門と、通年雇用がしやすい畜産部門の特色の違いがあるものと考えられる。また、畜産部門では「外国人技能実習生を増やしている」（16.5%）が比較的多いことが注目される。中でも酪農は、北海道が18.9%、都府県が20.7%と、外国人技能実習生を増やしている経営体の割合がとくに多い。

売上階層別に見ると、売上規模が大きい経営体ほど、労働力「増加」の割合が多くなる傾向にあり、これらの経営体での増加の方法は、「常時雇用を増やしている」と「外国人技能実習生を増やしている」の割合が高くなっていることがわかった（表3）。

### 女性従事者の割合、「増加」は「減少」の2倍以上

農業経営における女性従事者（パート・研修生除く）の占める割合については、「変動なし」（75.8%）の経営体が最も多かったが、「増加している」（16.9%）と「減少している」（7.2%）では2倍以上の差が生じた。

耕種部門と畜産部門を比較すると、畜産部門の方が「女性従事者が増加している」割合が多かった（図1）。女性従事者の割合の増減を業種別に見ると、きのこ、施設野菜、養豚の順に「増加している」がとくに多かった。なお、売上階層別に見ると、売上規模が大きい経営体ほど「増加している」割合が多くなる傾向があることも分かった（表3）。

また、女性が経営に関与している経営体の占める割合は全体では52.2%であった。女性が経営に「関与している」割合を耕種部門と畜産部門で比較すると、畜産部門（61.9%）の方が耕種部門（48.0%）より多く、

表1 直近の労働力の状況（労働力の増減別）  
単位：%

		直近の労働力の状況				
		過剰	適正	不足	無回答	合計
労働力の増減	増加	1.5	28.4	18.4	1.8	50.1
	変動なし	0.4	29.0	13.7	3.1	46.2
	減少	0.2	1.5	1.9	0.2	3.7
	合計	2.0	58.9	34.0	5.1	100.0

出展：「令和元年7月農業景況調査」（日本政策金融公庫 農林水産事業本部）、以下同じ。

表2 過去5年間の農業経営における労働力の増減

単位：%

	増加	増加の方法（複数回答）				変動なし	減少	回答数（件）
		家族が就農した	常時雇用を増やした	外国人技能実習生を増やした	パートを増やした			
全体	50.1	13.1	19.7	9.6	24.7	46.2	3.7	5,060
耕種部門	47.4	13.2	15.8	7.0	26.9	48.4	4.2	3,603
畜産部門	54.9	13.5	27.8	16.5	16.1	42.4	2.7	1,167
酪農（北海道）	49.1	15.4	21.7	18.9	16.0	48.0	2.9	175
酪農（都府県）	54.0	13.1	23.0	20.7	14.6	43.7	2.3	213

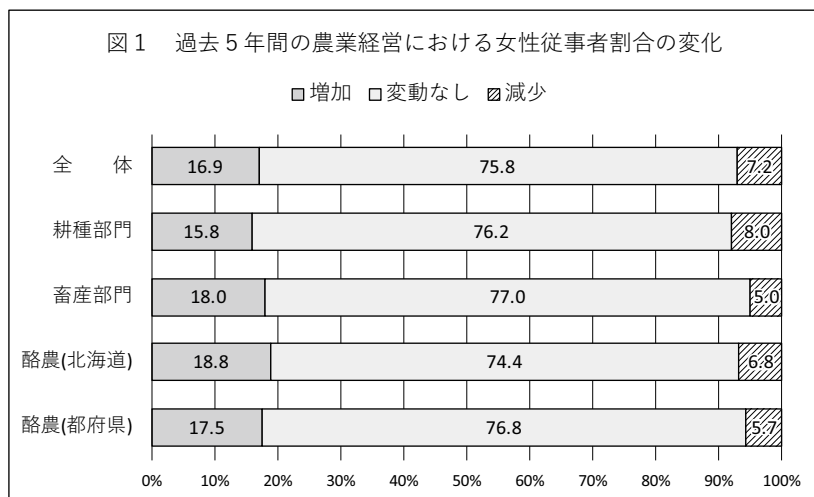
とくに酪農で多いことが分かった（表4）。

本調査において女性が経営に関与している経営体とは、「経営主が女性である」「女性を役員として登用している、家族経営では経営方針の決定に関与している」「女性を管理職など幹部登用している、もしくは女性に事業の一部を委ねている」のいずれか1つ以上回答した経営体である。

なお、女性の経営への関与の方法は、「役員として登

用している」（37.6%）が最も多く、とくに酪農で多いことがわかった。このことから、家族酪農経営においては女性が経営方針の決定に関与していることが多いことが推測される。また、売上階層別に見ると、売上規模が大きくなるほど、女性が経営に関与している経営体の占める割合が多くなる傾向がみられた（表3）。

女性従事者が担当している分野は、全体では「生産」（67.2%）が最も多く、次いで「経営管理」（53.9%）、「営業・販売」（26.9%）、「6次化」（17.5%）の順であった。耕種部門と畜産部門を比較すると、「営業・販売」「6次化」は、耕種部門において女性従事者が関与している割合が比較的多くなって一方、「経営管理」は畜産部門が多くなっている。酪農において、女性従事者が担当している分野の中で「生産」がとくに多いことが特徴的である（表5）。なお、女性従事者が担当している分野を売上階層別に見ると、売上規模が大きい経営体ほど「経営管理」の割合が多く、売上規模が小さい経営体ほど「生産」「営業・販売」の割合が多くなる傾向がある（表3）。



注) 女性従事者は、パートと研修生を除く。

表3 売上規模別にみた担い手農業者(経営体)の特徴

単位：%

売上規模	区分	労働力が増加した経営体の割合	女性従事者が増加した経営体の割合	女性が経営に関与している経営体の割合	女性が経営管理を担当している経営体の割合
		5億円以上	79.6	32.7	67.1
1億円以上5億円未満	66.9	22.9	67.4	63.7	
5千万円以上1億円未満	56.0	18.4	60.9	53.4	
1千万円以上5千万円未満	41.7	13.1	45.1	48.1	
1千万円未満	32.7	11.8	35.9	45.7	

表4 女性が経営に関与している経営体の割合

単位：%

区分	関与している (%)	関与の方法 (複数回答)			関与していない (%)	回答数 (件)
		経営者が女性 (%)	役員に登用 (%)	管理職など幹部に登用 (%)		
全体	52.2	3.5	37.6	19.1	47.8	4,194
耕種部門	48.0	2.8	34.3	17.8	52.0	2,954
畜産部門	61.9	5.3	45.9	19.9	38.1	1,002
酪農(北海道)	63.4	4.9	51.4	16.9	36.6	142
酪農(都府県)	60.8	3.3	42.5	24.3	39.2	181

注1) 「役員に登用」には、家族経営で経営方針の決定に関与している場合を含む。

2) 「管理職など幹部に登用」には、事業の一部を委ねている場合を含む。

表5 農業経営における女性の担当分野 (複数回答)

単位：%

区分	生産 (%)	6次化 (%)	営業・販売 (%)	経営管理 (%)	その他 (%)	回答数(件)
全体	67.2	17.5	26.9	53.9	14.0	2,988
耕種部門	69.2	19.2	31.5	50.0	13.7	2,015
畜産部門	64.1	12.5	14.3	62.3	13.0	775
酪農(北海道)	82.9	13.0	11.4	52.8	17.1	123
酪農(都府県)	72.8	10.3	11.8	63.2	13.2	136

注) 「6次化」は、加工・商品開発など。